

T H E Y A K U J I N I P P O

薬事日報 薬 学 生 新 聞

<http://www.yakuji.co.jp/>

発行:株式会社薬事日報社
東京本社 〒101-8648
東京都千代田区神田和泉町1
TEL.03-3862-2141
FAX.03-5821-8757
大阪支社 〒541-0045
大阪市中央区道修町2-1-10
TEL.06-6203-4191
FAX.06-6233-3681

長期実務実習

関係者の期待高まる

「地域社会への貢献」学ぶ場に

今月から長期実務実習が始まる。実習の開始を前にいくつかの薬系大学・薬学部では、初めて病院・薬局実習に臨む学生に、看護師の戴帽式に倣って、ホワイトコートセレモニー（白衣授与式）を実施するなど、薬剤師・医療人としての認識を高め、その責任の重さについて自覚を促している。一方、初めての長期実務実習の実りある成果に、受け入れ側の薬局や病院の期待も高い。日本薬剤師会の児玉孝会長は、「地域社会への貢献を学ぶ場にしてほしい」とし、日本病院薬剤師会の堀内龍也会長は、「異なるタイプの病院で、様々な経験をしてほしい」とエールを送っている。

タイプ異なる病院経験が重要に

長期実務実習の実施資格を担保する「共用試験」は、昨年12月から本試験、追試験、再試験が行われ、約9400人が受験した。その結果、C B T、O S C Eともに、99%以上が合格した。大きなトラブルもなく無事に初の共用試験を終えたことに加え、「当初心配していたような大量の落第もなく、安心した」と、国公立及び私立の薬学部・薬科大学の学長・学部長を代表する井上圭三氏（全国薬科大学長・学部長会議会長、帝京大学薬学部学部長）は胸をなで下ろしている。

先月10日までに、各薬系大学・薬学部ではホームページ上に、6年制教育に限っての「薬学教育第三者評価基準」に基づく自己評価書を、「自己評価21」として公表。この中では共用試験結果を含め、独自の薬学専門教育や実務実習事前学習など教育プログラムをはじめ、学生支援状況、教職員体制などが示されている。

共用試験をクリアし、今月からは長期実務実習がスタートする。ただ、初めての取り組み

みに、大学側も受け入れ側も多少の不安を抱えているようだ。大学サイドの立場から、井上会長は「本当に各実習先で、同じ質の高い実習がどれほど行われるかに関しては、懸念を感じている」と話す。

一方、児玉日薬会長は、「これまでの薬学教育では、現場を知らずに、机上の空論だけで学生を世に送り出してきた。長期実習は、その反省の上に立って行われるもの。現場を学ぶ意味をしっかりと理解してもらいたい」と、その意味合いを説明する。



実習に先立ち行われた白衣授与式。学生の宣誓も行われた（昭和大学）

さらに、「これほど多くの人と接する機会、場はない。薬剤師業務を通じて、地域社会に貢献していることを学んでほしい」と、実習ポイントを語る。

質向上には相互の切磋琢磨

また、堀内日病薬会長は「最近では病院の中で、薬剤師がいろいろな業務、活動をしていることが評価されている。医療、薬学的ケア、医療チームにおける薬剤師の役割を勉強してほしい」と話す。

日病薬では病院実習のあり方として、「ふるさと実習」、積極的な「グループ実習」も提唱しており、来年度以降にそうした実習の具体化を目指す方針だ。というのも、今年度は約9400人の5年生が実習に臨むが、次年度以降の実習生は1万2000人を超すものと想定されている。そのため、現状の大都市中心の受け入れ体制では限界が見えており、受け入れ施設の拡充が大きな課題になっているからだ。

堀内氏は「医師の研修も、様々な病院を経験する。また、1病院完結型ではレベルの差が出てしまう。病院には急性期も慢性期もあり、多様な経験が必要」と主張する。

学生やその学生を送り出す大学、受け入れる薬局・病院とも、より質の高い実務実習を目指しているが、その“ゴールドスタンダード”は未だ存在しない。相互に切磋琢磨し、創り上げていくしかない。実習を通じ、学生自身としても、自分の目で見、耳で聞き、感じたことをできるだけ記録に残すなど、次代の礎にしたい。「薬剤師法」が公布されて、今夏で50周年を迎える。初となる参加型の長期実務実習は次の50年に向けた第一歩にしたい。



あつ、
わかつちやつた。

薬剤師を目指す学生の支援サイト

薬剤師国家試験対策.com

PC <http://be89314.com/> 携帯 <http://be89314.com/i/>

